

大正13年(1924年)

益田農林学校誕生

益田清風高校のスタートは、益田の人々が数年にわたって請願し
設立された地域教育の拠点。益田の少年たちの憧れの場所でした。

益田農林学校とは？

大正10年、益田郡十一町村の町
村会議が実業学校設立の意見書を県
知事に提出してから3年後、町村組
合を設立母体として益田農林学校が
設立されました。初年度は萩原町役
場の2階を仮校舎としていました
が、翌大正14年には現在の益田清
風高校が建っているこの場所に新校
舎が建ち移転しています。

当時は、尋常小学校の卒業は12
歳、その後は家業を継いだり就職す
る人がほとんどで、農林学校を含む
中等教育へ進んで卒業できる人は1
0人に1人程度だったそうです。益
田地域には中等学校が無く、勉強し
たくても進学をあきらめなければな
らない人がたくさんいたことでしょ
う。そんな益田の少年たちにとって、
農林学校は希望の光だったのです。

○大正13年春浅き梅花もほころび
そめたその頃、萩原に益田農林が新
設されるといふ話を聞き、とても私
たちは中等学校へも行けない恵まれ
ぬ家庭環境にあっては夢のような喜
びであり、何が何でも進学したいと
父に頼みようやく入学することがで
きました。

○呱呱の声を上げた学校は萩原町役
場の2階を仮校舎として間口10間
奥行5間位の木造立てで、今思えば
ちっぽけなものかもしれないが、私
たちにとっては宮殿のように感ぜら
れ、2本の白線帽子に金ボタンつき
の小倉の制服に、少年らしい希望に

胸をふくらませて、街を闊歩したも
のです。
○翌年新学期から、現在地の広々とし
た高台のレンゲ畑の中心に校舎が移転
したときは全くうれしく、また新入生
を迎えることができました。

岡崎禮智「益高五十年」より

益田農林学校校舎と実習田



三年昇降口付近のこれは何？



マキを背負いながら本を読んで歩
く人の像、「三宮金次郎像」です。江
戸時代後期に農政家として活躍した
人です。50周年誌によれば昭和1
1年に卒業生が銅像を寄付し、大戦
時、昭和17年に軍に供出された後、
代替品の石像が注文されたという記
録が残っています。

農林学校をルーツとすることが、
本校に残っている理由の一つである
かもしれませんが。創立以来、学校がこ
の場所から移動しなかったこともそ
の理由でしょう。学校の歴史をずつ
と見てきた金次郎像。今後私たちが
守ってあげられることでしょうか。



養蚕実習